
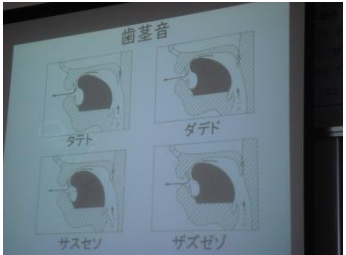





# 障教部言語部門 理論研修会 終了報告

<p>テーマ</p>	<p>クイズで学ぶ構音指導 基本の‘キ’ ～これであなたも構音指導のプロ～</p>	
<p>日時</p>	<p>令和元年 8月7日(水)</p>	
<p>会場</p>	<p>北広島市立緑ヶ丘小学校</p>	
<p>講師</p>	<p>高川 康 氏 (網走市立中央小学校ことばの教室担当・『クイズで学ぶことばの教室 基本の「キ」』著者)</p>	
<p>参加者</p>	<p>54名</p>	
<p>研修会 の 様子</p>		<p>参加者はことばの教室担当者だけでなく、半数以上が特別支援学級や通常学級担任の先生方でした。 「自分のクラスに発音が気になる児童がいるので、理解を深めたいと思い参加した」「構音指導のスキルを身につけたい」など、どの方も意欲的でした。</p>
		<p>前半は「理論編」です。 音声学について・構音障害とは・構音検査・音韻意識の発達・構音練習の順序と方法など、専門的な内容でしたが、高川先生のお話はテンポよくユーモアがあり、実際のビデオを見ながらの説明も多くあったので、とてもわかりやすかったです。</p>
		<p>パワーポイントを用いた聴覚的弁別力を育てるクイズ、楽しく構音練習ができるゲームなどを実際にやってみました。 あちこちから笑い声や歓声が上がリ、「指導者にとっては『練習』 子どもにとっては『遊び』」「楽しいと感じる活動を行っているときに、子どもは一番育つんですよ」という先生の言葉が頭に浮かびました。</p>
		<p>後半は「事例検討」です。 ことばの教室に通う A さんのビデオを見て、各自構音の評価をしたり、グループごとにレポートについての質問を考えたりと演習方式で行いました。どのグループでも熱心な話し合いが行われ、時間が足りなくなるほどでした。</p>
		<p>参加者からは、「ことばの教室担当として、改めて指導について見直したり、原点に立ち返ったりすることができるような内容だった」「発音指導には順番があることや、発音に課題があるお子さんの発達背景を理解することの大切さは他障害と変わらないということが改めて意識できた」などの感想がありました。 楽しく有意義であったという間の 3 時間でした。</p>